

訴訟法講義筆記

完

寫本
訴訟法
講義筆記
第五百七十二號
第十卷
完

第五號
第一架
第二

司法省
第八一號
寄贈圖書文庫

B500
B3
1a





許訟法

會
講
義

筆記

七年四月十日

昌谷

司法官

上のアルモノハ
原文ナリ

B500
B 3
1 a

訴訟法 ~~講義~~ 筆記 七年四月十日

第二章 下等裁判所 初等裁判所及高等法
裁判所ヲ指ス

第五十九條 人権ノ一ニ付テハ、被告人其住所

ノ裁判所ニ呼出サル可シ。若シ其住所ノ知レ

サル時ハ、寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サル可

シ。

一人権トハ、専ラ身分ニ關シタル一ヲ云フニ非ス。

總テノ貸借授與等ノ義務、人ニ對スルモノニ

テ、物ニ對スルモノニ非ス。其目的ノ人ニアル

ト物ニアルハ、區別シタル名ナリ

司法官

一 呼出原告人ノ住所ニ被告人ヲ呼出ス時ハ
 被告人ニ於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且種ニノ弊
 害ヲ生シ。其事實ノ取調ニモ不都合多シ。故
 ニ被告人ノ住所^{裁判所}ニ呼出ストナリ

又警ハハ東京人ニテ長寄ノ人ハ金ヲ貸タリ
 ト訴フモノナラン。其真偽知ル可カラ^{然ル}
 ニ被告人ヲ東京へ呼出^シ。萬一詐偽ナルキ
 ハ被告人ニ多少ノ費ヲ^蒙ル。依テ原
 告人ノ方ヨリ被告人ノ地へ往ク^トニサレ
^ハ速^テ原告^ノ費^ヲ掛^ルル^{コト}ヨリ
 原告^ノ費^ヲ掛^ルル^{コト}ヨリ
 原告^ノ費^ヲ掛^ルル^{コト}ヨリ
 原告^ノ費^ヲ掛^ルル^{コト}ヨリ

被告^人モ無益ノ害ヲ蒙ル^トナレ故
 ニ被告^人ノ^住所ニ往^ク其^裁判^所ニ^出テ^原則^トニ^定メ^タ

一 ^本住所ノ知レサル^トアル^ハ往^ク所^ノ定^メル^所ニ^往ク^{コト}ヨリ
 時^々然^ルコト

一 原被雙方ノ住所隔絶スル^カ或^ハ故障^マル^時ハ
 原告^人自^カラ^被告^人ノ^住所^ニ往^ク時^ハ
 代書^人ニ申送^リ之^レニ托^シテ訴訟^ヲ為^ス
 其^原告^人ノ^住所^ニ居^ル時^ハ

若シ被告^人數^人アル^時ハ原告^人ノ擇^ミニ從^ヒ

其中一人ノ住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ。
 一 被告數人アルトキ數裁判所ニテ裁判^{在共}ス。各
 裁判各異ナリテ債主ノ^為際ニ不都合ヲ生
 ス故ニ原告人ノ撰^選ニニテ一ノ被告人^住所^の
 裁判所ニ呼出スナリ。 後ニ詳ナリ

○
 物權ノ事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所
 ニ呼出サル可シ。

一 物權トハ動産不^動産ノ物件ニ對^シテ云フ
 ナレ共^ニ。^動産ハ不^動産ノミヲ指^シテ云ヘリ
 警^告ハ土地ヲ已^レノ^所有^トスル^訴或^ハ其入^額

ヲ已^レニ收納セントスル^訴等是レナリ。又土
 地侵奪ノ^トニ付テ其地ヲ取返^ス訴ハ即チ
 物權ナリ。

一 然^レ凡^ク警^告ノ失火^ニテ土地ノ經界紛亂^シタ
 ル^時其經界ヲ定^ムル^隣地^者申^合セ^ラ要
 スルニ其隣地^者之^ヲ承^知セ^サル^時之^ヲ承
 知^セム^ルノ^訴ハ人權ニ屬ス。

一 又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ賣^タリ^然レ^テ其
 地ハ長崎ノ何^ノ地^ト定^マシ^テ賣^カス^後に^甲乙^違
 約^シテ^渡ル^時其^違約^申出^スル^訴ハ^甲乙^之間^ノ事^トナ^リ

推十リ。

一近時佛蘭西ニ一例アリ。巴里ノ人「アルゼリ」
 ニテ土地ヲ引渡スヘキ契約ヲ為シタリ。然レ
 其契約ニ引渡スヘキ土地ヲ確定セス。只「アルゼ
 リ」ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スヘシト「
 ナリシカ。後ニ其人分散トナリ。終ニ其義務ヲ
 行フコト能ハス。依テ被告人ノ住所へ訴へ裁
 判トナリタリ。是亦土地ニ關スルコトナシ其人
 推ニ屬スレハナリ。

一動産ノ物件ニ付テハ何レノ^{裁判所}呼出スヘキ

此條。記スヘキニ^{此條ニ付テハ}是レ^{法律ノ}

未タ盡サ、レ所^款ナリ本條ノ下ニ動産ノ物件
 ハ被告人所在ノ裁判所ニ呼出スヘキヲ増補
 スヘシ。

○
 人権ト物権ト相混シタル事ニ付テハ。其物件
 所在ノ地ノ裁判所。又ハ被告人住所ノ裁判所
 ニ呼出サル可シ。

一人権ト物権ト混シタルトハ。タトヘハ^{買主}家屋賣
 渡ノ契約ヲ取扱メタル上ハ。其家ヲ現ニ受取
 ラスト雖ヒ^{其時ノ買主ノ住所}所有主ナ

リ然ルニ賣リ主列渡スハキ期日ニ其家ヲ渡
サ、ル^{ヨリ其處物ヲ許ス}ハ人権^{トナリ}又其家屋ヲ渡サ
シ付^{ニ付}自儘ニ使ヒ^ル其家屋ノ所有ノ權
ヲ許フルハ物權ナリ^{ト云フ}類ナリ

一 右ノ二權ヲ混ハルル^ルハ原告人ノ撰ニニ任カ
セ物件所在ノ地ニテモ又ハ被告人住所ニテ

モ呼出シテ^モ差^シ吏^トナシトス
積^ル有^ル權^ハ約定書^{取替}ノ時^申ヨリ乙

移^ルモノトス^ハ故ニ物ヲ受取ラヌ^モ買^ハ主^ト
以^テ者^ハ其物ノ所有主ナリ^ト然レ凡其物ノ定マ

ラサ^ルモ^ハ約^定ノニニテ物^ノ所有主^トノ

ト云^フ得^ルサ^ルナ^リ 詳ニ後條ニ見ユ

一 又未^ダ丁^年ニ至^テサ^ルモ^ハ人^ト契^約ヲ^為ス^ノ權

ナ^リ其^契約^ハ廢^レテ^カナ^リ其^契約^ヲ
付^許訟^起ル^時買^主ハ契^約ヲ^為カ^ラサ^ル人^ヨリ買^ハシ

ル^ハ故^不正^ノ所^為ト^ナル^ハ知^者ハ賣^買ス^キ權^ナキ^ヨリ

其^契約^ヲ取^消ス^レト^云フ^ハ又^其物^件ハ已^レ所^有ナ^リ
ト^云フ^ノ類^是人^權物^權ト^相混^スル^モナ^リ

一 右ノ二權^ニテ^ハ此^ニ書^載ス^ルナ^リ

正ノ條此同
陸後ノノ
カニ置ケル

此段前ノ合文ノ所

レハ分注

訴訟法會議筆記

七年四月十五日



司長印

司長印

四月十五日會議

重キ人権物権ノトヲ説ク

一 ^抑人権ト物権トヲ分ツハ裁判上都合ノ為メニ設ケタルモノナリ

一 総テ義務ニ関スルハ ^許人権ナリ其義務ハ契約ヨリ生スルモ法律上ヨリ生スルモ之レアリ

一 物権ハ総テ物ニ對シ此物ヲ已レノ ^許物トシテ

等ヨリ生スル ^純純ナリ其目的物ニ在ルユヘ物

ノ中 ^許許ハ物権ナリ其目的物ニ在ルユヘ物

一 不動産ニ限り必ス其現在ノ土地ニ於テ裁判ス動産ハ身ニ附属スルモノトス故ニ被告ノ裁判所ニ於テス

一人権物権ノ區別ヲ為シ又其一ヶ所ノ裁判所ニ定ルコトニ付テハ緊要ノコトアリ左ノ如シ

一 原告人ノ多ク及數ハルキ債權分派ノ場ニ至リ各其望ヲ充ツルコト能ハサルモノナリ譬へ數人各百兩ヲ借シタルモノアリ百万兩ヲ借シタルモノアリ然ルニ數ヶ所ニテ之ヲ裁判スル時

ハ一人ハ十ノ七八分ヲ取ルコトヲ得又一人ハ十ノ二三分ヲ得ルコト能ハス不公平ヲ生ス故ニ之ヲ一ヶ所ニテ裁判シ各其義務ノ高ニ循ヒ分派ノ公平ヲ得ルヲ要スル所ナリ

一 物ノ定マリタル約束ノ時譬へ何地ノ何番何号ノ家ト確定セシキハ則チ物権ニ屬ス故ニ其類ハ裁判権ヲ以テ其物ヲ差押へ取揚ルヲ得ル家賃等ノ時其財産中ニ加フコトヲ得ス

一 物ノ定マラサル約束ノキハ物ナキカ如シ

故ニ其違約ニ付損害ヲ生スルコトアレハ其償
ヲ出ナシム此類ノ如キハ分散ノキニ加ヘテ特權

可保ツナシ

一 米ヲ人ニ賣ルニ買^主ノ^主ニテ其米ニ符号ヲシ

記シタルノミニテ米^主ノ買^主ノ^主受取ラサル間

ニ賣主分散トナリタル時ハ即チ買^主ノ^主ニテ之

レヲ引取ルコトヲ得ル分散^ノ財産中ニハ^カタル

カタル

一 又既ニ米ヲ買ヒタルトモ其米ニ符号ヲ

記セサル中賣リ主分散トナリタルキハ買入

人^ノ引取ルコトヲ得ス分散^ノ財産中ニ^カタル分

派^ヲ取ルナリ

一人權ニテ訴訟起リ物權ノ^{コト}ニ涉ル共其訴

訟ヲ甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移スコトナ

シ

トトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地

ノ裁判所ニテ取調ヘタルニ^付タル^物ナシ

却テ彼地ニハ土地^カアリ家屋^カアリ此時ハ

此地ノ裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ原告人

彼地へ持参シ使吏ノ手ヲ經テ^時タル^物ナシ

渡ス^{其時}フヨ命ス万一^{三十四日}間ニ渡サ、ル時

ハ彼地ノ使吏ノ権ヲ以テ取揚ルヲ得ルナリ

一^同上ノ場合ニテ米ヲ渡^テル時^{家屋地所}

等ヲ渡ス^テル時ハ証文ノ書替^テル

ナリ^即レヲ義務ノ更改ト^{民法千二百七十五條以下見合}

一万一其人分散ニナラントスルキハ証文ヲ書

替ヘ其ノ義務ノ更改シ為ス^テ得ス

一本文其物件ノ上ニ^{原告人ノ撰}ミニ^{任セ}ト云

フヨ補フ可シ是レ亦夕律文ノ足ラサル所ト

云フ

學判

又人権物権相混シタル例ヲ左ニ説ク

未タ下年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ立ツル

ノ権ナシ其契約ハ廢シテ可ナリ然レ氏全ク

廢棄ス可カラサルモノアリ其契約ニ付訴訟

起ル時物主ハ幼年ノ人ナリ買主ハ契約ス可

カラサル人ヨリ買タル故不正ノ所為トナ

ル其時ハ幼者ヨリ其物ハ已レノ所有ナリト

云ヒ又賣買スヘキノ権ナキ故其物ヲ引渡ス

ヘシト云フ是レ人権物権相混スルモノナリ

治産ノ禁ヲ受ケタル人及ヒ婚スル婦人皆

自主自由ノ權ナキト亦未ト人ニ異ナルナ

一 第五十九條第三項コテハ呼出シノ正則ナリ

此第四項ヨリ以下ハ呼出シノ變則ナリ

會社ノ一ニ付テハ其ノ會社ノ存續スル時間之

ヲ設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

一 會社ノ事ニ付テハ人權ニカ、ルト魚モ必ス

其會所ノアル地ニ於テ裁判ス。

會社ニ其本^{會社}社ノ定マラサルモノアリ此時ハ

其社中^者住所^{裁判所}ニ於テス。人權ノ正則ニ循フナリ

又存續スル^時トアリ既ニ存續セサル日ニ

至リテハ前条ト同一ナリ

遺物相續ノ一ニ付、其ノ分派ニ至ル迄ノ時間

其相續人等ノ互ニ為ス訴訟。及ヒ分派ノ前死者

ノ債主ヨリ為シタル訴訟。並ニ分派ノ裁判言

渡ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺孀ノ贈遺ヲ執行

フ一ノ為メノ訴訟。ニ付テハ其ノ遺物相續ヲ

為ス可キ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

一 遺物相續ノ事ニ付テハ未タ分派セサル間ハ

死者ノ住所^{裁判所}ニ於テス此レ人權ノ本則ト異ナ

リ既ニ分派スレハ否ラス

一本文ニ分派スル迄ノ時間トアリ。相続人幾人モアルキハ。此迄ニテ可ナリ。其一人ノ片ハ差支フル文ナリ。然レ氏相続人一人ナル片ハ右ノ時間ヲ待ツニ及ハス直ニ其相続人ノ^{件ノ裁判所ニ於テ}呼出サレタルナリ

一又相続人数人アルキハ。悞議セシムル為ノ又後日混乱ノ起ラヌ為ノ其分派ニ至ル迄ノ時日ヲ延ハシ其死者^{債權ノ裁判所ニ於テ}裁判ス一人ノ時ハ悞議ニ及ハス。故ニ時間ヲ待タサルナリ

ルナリ

然レ氏善ク此一節^{ニ注意ス可キナリ}解セサル可カラヌ死者他人ヨリ預リ置クモノアル時ハ。其預ケ人ヨリ取返ス為メノ訴ハ本則ニ循フナリ
一此一節三段ナリ。第一。他人ヨリ相續人ニ對スル訴訟。第二。死者ノ債主ヨリ相続人ニ對スル訴訟。第三。遺囑ノ贈遺ヲ執行フ為メノ訴訟。ナリ。

家資分散ノトニ付テハ。分散人住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ。

一家資分散フ 原語トハ商人ノ上ニテ云フ通

常人ノ身代限供限拜限ハ家資分散ト云ハス財

産抛棄ト云フテコ原語ニフテール以下見合民法千二百六十五條

一商人家資分散ト決スレハ管財人ハ 原語カシテツシ

定メ其者ニテ夫々財産ノ處置ヲ為ス。故ニ債

主ヨリ管財人ニ掛リ訴訟ス。然ルキハ管財

人ノ住所ニ呼出ス可キ特標ナレバ變則ニテ其分散人

住所呼出スナリ

右管財人ハ債主ニテ撰ムナリ。

一分散ヲナスハ一時ニ債主ノ集マルトハ出来

ナルナリ。故ニ商法裁判所ニテ假リノ管財人

ヲ申付ケ置キ。債主皆集マリタル上。債主協議

シテ本管財人ヲ立ツ。

常人財産抛棄ハ管財人ヲ立ルトナシ。

一家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フトヲ止ヌタル以

後ヲ云 商法四百三十七條見合

一財産抛棄ハ已レノ所有スル諸般ノ財産ヲ悉尽ク義

務ヲ得ヘキ債主任カスルト云 民法千二百六十

五條見合

一家資分散ニ付民事ニ關係シタル訴アル片ハ

民事裁判所ニテ之ヲ裁判ス其債主ハ其裁判
言及書シテ之ヲ自本人ニ遺シテ分派ヲ要ス
但シ債主ノ特權書入質カ去ク

訴訟法會議筆記
七年四月二十日

四

五

欄上〇アルモノハ訴訟法原文

四月二十日會議

第五十九條第八項

保証ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲ為シタル裁判
所ニ呼出サル可シ

一 此條ハ甚タ六ヶ敷キ所ヨリ先ツ保証ノ
柄ヲ説カン

一 保証トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ勝
タントスルニ付キ他ノ一人ノ對ニ防禦ヲ
ナス為メ保証人ニナシキコトヲ依頼スル意ナリ
一 タトハハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ルルハ債主負

債主アリソノ時ニ當リ別ニ保証人アリ後日債主ヨリ負債主ニ金ノ返濟ヲ求ムルトニヨリ訴訟トナル如此ハ負債主ノ必ラス自カラ防クヘシ保証人ヲ頼ミ防クノ理ナシ然ルニ債主ヨリ保証人ニ對シテ債ヲ求ムルキニ至リテハ保証人ヨリ負債主ニ對シテ防禦ヲ求ムルノ理アリ之レ即チ為_レ保証人ノ保証ナリ

一 債主東京ニアリ保証人モ亦東京ニアリ負債主ハ西京ニアリソノ時債主ニテ便利ノ為メ保証人ヲ相手取りテ訴フルキハ保証人ニテ

ハ負債主ヲ呼ハサルヲ得ス是ニ於テ負債主ハ保証ノ為メ東京裁判所ニ呼出サル可シ

一 本則ナレハ原告人ハ負債主ノ西京ニ在ルヲ以テ西京ノ裁判所ニ訴フ可キナレモ其主タル訴訟ハ債主ヨリ保証人ヲ既ニ東京ニ訴ハタルニ付負債主ハ東京ニ呼出サル可シ

一 負債主ヲ訴フルハ本則ナレモ保証人ヲ訴ルモ負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス

一 此條ハ債主ノ為メニ甚タ便利ナリトモ債主ハ不便ナリトモ
 負債主ノ為メニ便利ナル様第百八十一條ニ補

足スルモノアリ

一 前文ニ云フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ奸計ヲ
為スル者モ其ノ請
 為スル者ニ保証人ヲ訴ヘタルモ負債主ニテ右
 奸計ヲ覺リ且ソノ證アルモハ負債主ノ住所
 ノ裁判所ヘ債主ヲ呼出スコトヲ得可シ

一 タトヘハ西京ノ負債主ハ富人ナリ故ニ保証
 人ヲ訴フルニ及ハス然ルモ東京ノ保証
 人ヲ訴フルハ何カ奸計アリトス有リ増信
 於テハ其ノ証アルヲ以テ負債主ノ住所
ノ裁判所ヘ債主ヲ呼出スコトヲ得ル

前

一 佛國ニ於テハ前ニ此條ヲ置キ後ニ第百八十一
 條ヲ置キ補足ス目氏日本ノ如キハ必ラズ負
 債主ノ住所ヘ訴フルニ於テハ如此心配ナシ

一 二人ニテ同シク借リタルモノアリ債主ニテ
 甲ノ住所住所ノ裁判所ニ訴フルモハ乙ノ一人モ其ノ住所ノ債主
 ノ撰目ヲ訴ハシテ裁判所ヘ出テラ得ス

一 又一例ヲ舉ケン甲ニテ乙ノ家ヲ買ヒテ其家
 ノ主ナリト思フ然ルニ丙ノ一人来リテ
 我レ主ナリト云ヒ其ヲ取戻シテ訴メ
 其ハ物權ヲ付其物件所在ノ裁判所ニ訴

時受取書ナキニヨリ負債主負ケトナリ一旦
裁判済ミタル上後日ニ至リ負債主其受
取ヲ見出シタルキハ二重ニ返シタル分ハ取
戻シハ出来ルヤ

既ニ裁判所ニテ裁判ヲ為シタル上之ヲ取上
ケス一旦裁判シタルモノヲ再ニ取揚クル
時ハ裁判輾轉シテソノ權ナシトス

但シ一方ノ者其不正ナルコトヲ知リテ之ヲ返
ス時ハ格別ナリ之ヲ自然ノ義務ト云

問日本ニテハ後ニ證ヲ見出シタルキハ幾度ニ

テモ裁判ヲ為スナリツノ得失イカ、

答 左様ニテハ一時假ノ裁判ト云フモノナリ證ノ出ル毎ニ

取揚ルコトニテハ裁判ノ止ム時ナシ故ニ佛ニテハ取揚ケス

然レモ一旦裁判済タル後更ニ證ヲ出シ裁判

取消ヲ願フコトヲ許スコトハ凡十ヶ條アリ四百八

見合セ前文ノ如キハ十ヶ條ノ内ニ入ラス

第九項

證書ノ如ク執行フコトニ付キ別段住所ヲ擇ミタ

ル時ハ民法第百十一條ニ循ヒ別段擇ミタル住

所ノ裁判所又ハ被告人ノ真ノ住所ノ裁判所ニ

一 呼出サレ可ク行フニ付キテ、^{呼出サレ可ク行フニ付キテ} 後リヤリ條約等ノ
住取所ヲ撰ムトハ、^{住取所ヲ撰ムトハ} 雙方同意ニヨリテ撰ムトア

リ、又原告人ノ為メニ撰ムトアリ、被告人ノ為
メニ撰ムトアリ、此條ニテハ原告人ノ便利ノ

為メニ被告人ノ住所ヲ撰ムトニ^撰テ言フ之
レ亦則ナリ

一 又變則アリ若シ被告人ノ便利ノ為メニ撰ム
ルハ原告人ニテ他ノ裁判所へ訴出スルコトヲ
得ス

一 原告人ノ為メニ撰ミタルルルハ動カス可カラ
サルモノト^{セズ}為サス被告人ノ為メニ撰ミタ
ルモノハ動カス可カラサルモノトス

一 又原告被告雙方ノ為メ何レノ便利ナルヤ契
約書ノ文意不分明ナルルルハ必ララス被告人便
利ノ方ニ撰フ可シ之レ法律^審明ノ本意ナリ

民法千百六十
二條見合

司法司

司法司

訴訟法會議筆記

七年四月廿五日

司法官

司法官

四月二十五日會議

第六十條

裁判所ニ管シタル官吏。代書師使吏裁判所費用

ノ償戻ヲ得ントスル時ハ以前其費用ノ生シタル

裁判所ニ之ヲ訴出ス可シ。

一第五十九條ノツキ本則ニ違ヒタル一則ヲ

挙クルナリ通例ナラハ被告ハ裁判所ニ呼

ビ出タタル可シ。裁判所ニ呼出スルト不

一裁判所ニ管シタル官吏トハ門監ト代書人ト

ノ外書記官モ此中ニアリ但シ代官人ハ関セ

ス

一 代書人ハ重ニ原告人トナルソノ譯ハ頼マレタル節入費ヲ請取置クトモ多クハ不足スルコトアル故ナリ故ニ^被監代書師等ノ原告人トナル方ヨリ説クナリ

一 通例ナレハ頼ミタル人即チ被告人^{其住所ノ}裁判所へ^出出^可キナレ氏之レハソノ費用ノ生シタル

一 ^{然レモ}注意スヘキハ人権ニ付テノ訴訟ハ必ラス被告^人ノ裁判所へ訴フ被告^人ノ裁判所ハ則チ

費用ノ生シタル裁判所ナレハ^有即チ其正則ニ

循フ譯ナリ若シ物権ニ付キタル訴訟ナレ

ハ則チ本條ノ規則ニ循フ即チ變則ナリ

一 又代書師等ノ被告人ニナル時ヲ云ハニ即チ

訴訟入費ヲ多ク取リスキタル時ナリ

一 代書師ハ裁判所ノ権限アリテ他ニ行クコト能

ハス故ニ代書師被告人ニナル氏ハ則チソノ

奉仕ノ裁判所ニ呼出サルコトナリ何トナレハ

奉仕ノ裁判所ハ即チ本人ノ住所ニテ費用ノ

生シタル裁判^所ニ訴フルコトナレハ之レ即チ正

則ナリ

一 其裁判所へ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取扱ヒ
テ能ク其事柄ノ分明ナレハナリ本條ノ支對ナ

一 若シ代書師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後訴
訟ノ起ルキハ即チ以前奉仕ノ裁判所へ呼出
タサル、ナリ之レ本條ノ正則ナリ

一 若シソノ代書師死去セシ後訴訟起リタル節
ソノ子孫遺物相続分派ノ濟ミタルキハ正則
ナレハソノ子孫ノ各所ニ住スル裁判所へ訴
訟ス可キナレ氏代書師ニ付キタル訴訟ニハ

即チソノ父ノ奉仕地即チ裁判費用ノ生

シタル裁判所へ訴フルナリ

此ノ如ク變則多ケレ氏正則ノ一モ多クナ

ルナリ

一 第一ニ裁判費用ノ生シタル裁判所ニ訴フル
所以ハ其道理ヲ能ク知了シ居ルユ其裁判

所へ訴フルノ理ナリ

一 謝金目録ノ常制アリト虽モ別段六ヶ敷訴訟

ナレハ幾分ノ謝金ヲ増シ与ヘルトアリ此等モ

此裁判所ニテ能ク其事柄ヲ知り居ル故ナリ

併シ此ノ理ハ拙劣ト思フナリ何トナレバ以前
ノ裁判官ニシテ能ク其責ヲ知リタルモノハ調入ナレバ宜シケレバ

必ラス前ノ掛リノ裁判官トハ定メ難シ殊ニ
巴理ノ如キハ別ニ裁判費用等如キ事件ノミヲ調フル

為メノ裁判官アレハナリ

又ノ裁判所ニシテ局ニシテナレバ我ク言ノ

如キノミナラサルモノモアル可シト虽モ裁
判官ハ昇進シテ各所へ轉シ又退職スルモノ

アレハナリ

又五年毎ニ過キテ訴フルニ前ノ掛リ裁判官ハ在職ルヤ

ニスヤ知ルヘカラス

一タトヒ此ノ如キヲ訴フルトモ訴人ノ言フコ

ヲ直ニ聴クコトニアラス其件書類ヲ以テ其曲直ヲ

定ムルコトニ訴出スルハ宜シキニアラスヤ

故ニ前ノ掛リ裁判所ニ訴フルノ説ハ立タサルコト

論ヤリ

若シ代書師等不正ノコトヲ為スハハソノ裁判

官ニ於テハ督責ノ権アリ又免職ヲモナスノ

権アリ故ニソノ裁判所へ訴フルハ譯ナレバ

思ハレ

以上道理の云ヒタルモノハ皆不道理ナリ何
 然レトモ
 其ノ代書師等ノ免職又ハ死去スル
 事アレハ罰スル出来サル故ニ
 謝金ヲ取過キタル分ハ何レノ裁判所ニ
 テモ取戻スル出来ルナリ故ニ此條中
 得シトスル時ハ其職務ヲ行ハハ間
 改正セサル可カラズ此條ハ立法官ニテ代
 書師等ノ弊ヲ矯ムル為メニ立タルモノナレバ
 制限ヲ越ヘ免職又ハ死去等ノ節ハ為ス可
 カラサルニ至レリ

一 因テ...

一 此條ハ専ラ代書師等ノ被告人トナルキノ為
 メニ設ケタリ
 一 元来正則ニ依ルヲ主トズ變則ハ少ナキ方宜
 シ
 一 代書師ノ原告人トナルキハ必ラス變則トナ
 ル
 一 問 巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ為メニ別局ヲ立
 ツルハ古クヤ此類甚タ多キヤ
 一 答 昔ハ多シ但シ即今ハ代書師會社アリテ大
 抵ハ右ノ會社ニテ調ヘ濟ミナナルユヘニ甚

タ少ナシ

一 昨年玆ラレキ訴訟アリ代書師ニテ八千ハラ
 ニクノ謝金ヲ取ラントセシトアリ自分教師ニモ
 相談アリタリ得意先キニキハ四千ハラニクシ
 与ヘント云ヒタリ然ルニ會社并ニ裁判官ナ
 トノ見込ニテ六千ハラニクシ遣ルトナレリ
 一 謝金目録定制ノ外ニ別段ノ謝礼金ヲ遣ラサ
 ル可カラス若シ常例ノ外ニ遣ウスト云フ成
 ハ裁判官ニテ適宜ニ謝礼ヲ遣ル可シト言渡
 ナリ右ハ夫コ入費又ハ時間ヲモ費ヤス故ナ
 リ然レモ弊アリ良法ニアラス

一 之レニ反シテ代言人ハ自ラ謝金ヲ求ムル
 シ得ス得意先ノ贈与スルヲ以テ足リトスル
 ノ外ナシ故ニ多クモ其謝金カイタリトテ辞セス又
 也典セサルトモ是訴訟フルトヲ得ス

一 代言人ハ且訴訟ニ付キ何程出セトハ約束
 ナルトハ禁スルナリ頼ムモノ、本心ヨリ贈ル
 事ノハ約束請ルトヲ得シト猶モ謝金何程出スベシト
 一 別段ノ謝礼ハ使吏ニハ贈ルニ及ハス但シ過
 分ニ入費ヲ取り居ルトアレハ訴訟トナルナリ

一事ニ寄リ別段カヲ尽ス_トアリソノ時ハ別段ノ謝礼ノアル_トモアリ

一 代言人ヲ頼ミタリトテ贈ル可キ金ナキ片何程贈ル可シト證書ヲ出ス_トアリ後ニ右ノ金

ヲ贈ラス_トモ其證書ヲ以テ訴フル_ト能ハス_{ハ本條外ニ変則トナル_トヲ更ニ述_レントス}

一 民生證書ニ誤字書損等アル_カ取調ル_ニ有心_ト過誤トアリ_ソノ取調ノ_トヲ訴フルニハ變

則トナルナリ其訴ハ_ハ我子_ヲ認ムル_カ又_ハ離縁_ノ訴等身分ニ関スル_ノ訴トハ_ハ別_ニ

リ全ク證書ノ誤リ_ヲ訴フル_ハナリ

一 右ハ人ニ對スル訴ニアラス書類ニ對スル_ノ訴ナリ

一 民生證書ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤マ_レカモ知ラス_故ニ此ノ如キ訟ハ被告人アル_ト

ナシ_ト如キ訟ニハ呼出_ル状等ナシ使吏ノ取次_ニテ裁判所_ニ出ス_レテ檢事ニ廻ハス_ソノ

時始メテ檢事ハ被告人トナルナリ

一 此ノ如キ訟ハ何_レ所_ニ裁判所_ニ出ス_可キ

ヤシ記載セスト魚モ最初民生證書ヲ記載

セシ裁判所ニ差出ス一ナリ

一 通牒ノ外ニ至急吟味ヲ願フハ^モ裁判所長

ヲ判養知セリ^ト返事ヲ出ス俾^キ民生證書

ノ^其付テハ返事ヲ出^ルトナレ^ル公取調^ノサ

ルヲ得^ルハナリ

一 右ニ付テ道理アリ^ト至急吟味ヲ許ス^ト許サ、

ル^ト裁判官^ノ見^テ此民生證書取調^ノ儀

ニ於テハ即チ裁判ヲ願フナリ之レヲ取揚ケ

カレハ裁判ヲ拒ムニ属ス

一 民法第九十九條ニ唯其所轄ノ裁判所ト書

儀^トナリ夫レニテハ分明ナラス必ラスソノ

書類ハアル裁判所へ訴出ツ可シト^認可シ

事^トヨリ親類等ニ被告人ノアル^トモアリ民法

第百條ヲ見合ス可シ

一 ソノ被告人アリト魚氏被告人ノ裁判所へハ

出テス

第六十一條 呼出状ニハ左件ヲ記ス可シ

第十項

年月日原告人ノ姓名職業住所其者ニ代ル可キ

代書師ヲ任シタル事。及ヒ原告人其代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事。

但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事ナキ時ハ其旨ヲ記ス可シ。

一 呼出状ニ年月日ヲ記スト魚毛何曜日トハ記セス

何ノ為ニ日ヲ記スト言ハ日ヲ記セサレハ呼出状ノ日限分^{明ナ}ラス右ハ幾日ノ時間ニ

裁判所ニ出ル云々ノコトアルユヘナリ
一 礼式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出状ヲ出スコト得

ス但シ至急ノ事ニ付テハ願書ヲ出シ許シヲ受ク可シ 第六十二条見合

何月何日
一 使吏ノ呼出状ヲ書ク時何某ノ願ニ依テト記

ス被告人一見シテ原告人何某ノ呼出ニテ何日ニ裁判所ニ出ツルコトヲ兼知スルナリ

一 佛ノ^感ニテ代書師ナシニハ訴フルコトヲ得ス故ニ代書師ハ何某ト記ス

一 此呼出状ヲ遣レハ被告人ヨリ返事ヲ為スニ呼出状ニ別段住所ヲ擇ミタル事ヲ書セサルハ原告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ送ル

本住所へ往復スル片ハ遠隔ノ地等ハ不便利
ナリ故ニ右等ハ別段ソノ地ノ代書師ノ家ニ
別段住所ヲ撰ムコトアリ

然レ氏原告人ニテ必ラス其家ニ寓スルニア
ラス

一 本文住所ヲ擇ム事トハ代書人某ノ家ニ住
居シタル者ヲ記載スルコトナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ムニ先
時何處何某ノ家ニ住所ヲ定メタル者ヲ
記載スルコトナリ

訴訟法會議筆記
七月四日三十日

司
志
首

司
志
首

四月三十日會議

十前會第六十一條ノ第一住所ヲ擇テ事トハ代
 書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ書載スル
 寸但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタル
 時何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載
 スル事ナリ

第二 呼出状ヲ送達スル使吏ノ姓名住居授任
 状被告人ノ姓名住居并ニ呼出状ノ副本ヲ
 別ニ受取ル可キ者アル時ハ其者ノ姓名
 ヲ記ス可シ

一前項ニ原告人ノ一ヲ記スノミニテハ呼出ノ効ナシ依テ此項ニ使吏ノ一ヲ記シ又被告人ノ一ヲ記シ又其受取人ノ一ヲ記シテ始テ其効ヲ生スルナリ

一被告人ノ姓名云々右ハ知ルヲ得ヘキニ於テハ姓名トモニ記載スト虫氏姓ノミニテモ是レリトス職業等記スルニ及ハス

一別ニ受取ル可キ云々呼出状ハナルヘキ丈ケ本人ニ渡スヘキ一ナレ共本人^{不在}時ハ本文ノ通り親屬從者近隣ノ者ニ渡し置ク一ヲ得

ルナリ第六十八条見合

一本人ニ呼出状ヲ渡ス一ハ必ス其家ニ於テスルニ及ハス途中ト虫氏之ヲ渡しテ苦心カラ

一然レモ裁判所ニ在ルキ又ハ議院ニ出席ノ時又ハ寺院ニテ説教中等公礼儀式ノ場ニテハ右ノ状ヲ渡ス一ナシ

一其公礼儀式中ニ右状ヲ渡サ、ル譯ハ二説アリ一ニハ右ノ状ヲ渡ス為メニ傍人ノ驚駭ヲ醸シ満坐ノ妨害ヲ為セハナリ

二ニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムトテモ出
未ス直キニ懷中ニテテ遂ニ忘却スルニ至ル
トアレハナリ

一 使吏其家ニ行キテモ本人不在ナル時ハ其親
族又ハ僕婢ニテモ居合せタル者ニ渡置トテ
得ル

一 右ノ場合ニ於テ法律上ニテ丁幼ヲ論スル
トナレトモ虫モ幼者ニハ渡置クトテ為サス
若シ幼者ニ渡ストアレハ其使吏ニ罰アリ
其ノ事ヲ辨スヘキ程ノモノナレハ婦女子ニ

テモ之ヲ渡シテ差支ナシ

一 右親族僕婢ニ渡シタル中ハ使吏ヨリ其ノ受
取ヲ請ハス又其ノ親族僕婢モ受取ノ印ヲ押
スニ及ハス又被告人自カラテ受取タルニ受取
書ヲ出スニ及ハス但シ親族僕婢ノ受取リタ
ルニハ本文ノ通り使吏自ラ其呼出状ニ副
本ニ其者ノ姓名ヲ記入スルナリ

一 原来使吏ハ奉職ノ始メ誓ヲ為シタル官吏ニ
テ右等職務ノ取扱上ニ於テ詐偽ヲナサハル
モノトス故ニ受取ノ證ヲ他人ニ請ハストモ自身

ノ記入ニテ十分ノ証アリトス若シ其書面ニ詐偽
 ヲ為シタル時他人ヨリ訴へ出テ其事實詐偽
 ノ證出ル迄ハ真正ノ者トス其果シテ詐偽ニ
 極マルキハ勿論其嚴罰ヲ受クルトナリ
 一若シ受取リタル者親族僕婢同居ノ者ニテ其
 状ヲ紛失セシムルキハ使吏ノ罪ニアラス被告人
 ノ家事不取締ニ歸スルナリ

一被告人其呼出ヲ知ラスシテ裁判所ニ出席セザ
 ルキハ欠席裁判トナル然レモ其裁判ニ不服ナ
 ルキハ右行違ノ故ニ因リ故障申立ルトテ得ル
 故ニ補ヒノ出来サルモノトセズ

一若シ呼出状ヲ渡スニ其者ヨリ受取ヲ請フテ
 始テ之ヲ証トナスハ必スシモ使吏ノ職掌
 ヲ待タスレテ可ナリ然レモ其状ヲ持行キタルハ
 被告人ノ取ニ靠レモ居合セサルトナリ或ハ
 之ヲ避ケテ故ヲモ不在スルトナリ然ルハ
 何時マテモ裁判ヲ得ル能ハス原告人ニ於テ
 迷惑少カラズ

一又爰ニ一説アリ別段債銭ヲ高クシ郵便ニ托
 シ本人ニ手渡しテ他人ニ渡サヌ法アリ

呼出状モ此ノ取扱ニナシタテハ然ラント
 然レ亦不都合アリ被告人其ノ呼出状ヲ
 得テ裁判所ニ出サルモノアリ裁判所ニテ
 之ヲ詰問スルニ書状ヲ得タルハ呼出状ニア
 ラス他ヨリ金ヲ送りタルナリ請待ヲ受ケ
 タルナリナト言ヒ紛ラス一アリテ誰モ
 其書ヲ検査シタルモノニ非ラサレハ其真偽ヲ
 區別スル一能ハス甚タ困難ヲ生ス
 一故ニ一種ノ権アルモノニテ擔當シ過キアレハ
 必ス罰ヲ受ルモノナカル可カラズ是即千使吏
 ヲ置ク所以ナリ

一又被告人及ヒ一家不在ノキハ必ス接近ノ隣
 人ニ渡し置ク一ヲ得ル其近隣ト云フハ樓上
 ヲ始メ四隣ヲ近隣ト云フニ階家アルキハ下
 タニ住スルモノヲ呼出スニ樓上ハ尤モ近隣ナリ
 其近隣ノ人受取りタルキハ其使吏其近隣ノ
 者へ責ヲ帰スル為メニ其受取ノ證アル一
 ヲ要ス詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ

一法律ニ於テハ一軒ヲ隔テタル家ニ渡ス可カ
 ラスト云ハサレ共使吏ニテ其隔リタル家ニハ

之ヲ渡サス

一 又近隣ト虽モ醉人又ハ平生不行跡ニテ頼ル可カラサルモノヘハ之ヲ渡スルナシ

一 頼ルヘキ人ニ之レヲ渡スルハ其ノ者正本ニ其ノ姓名ヲ手署スルナリ

一 若シ之ニ姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又之ヲ拒ム時ハ使吏邑長副邑長ニ渡シ其ノ檢印ヲ受ルナリ第六十八條ニ詳カナリ

一 然レモ第六十九條第八項ノ場合「佛蘭西國內ニ分明ナル住所アラサル者ヲ呼出ス時ハ此

例ヲ用フ可カラス

一 其時ハ同項ニ記載シタル通り其訴ヲナシタル裁判所ノ門扉ニ貼付スルナリ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟ヲ為ス憑據ノ簡

略ナル辨明

一 訴訟トナル可キ目的何号ノ事ト云フヲ記ス
一 不動産取戻シノ訴ナラハ取戻ス所ノ目的又
一 所有ノ權ノ訴ナラハ所有ノ權アル目的の巨細ニ記
ハシ

右訴訟ニ付此ノコト如何ト問フニアラス此事ヲ

如何處分スヘシト申遣スナリ

一 又唯金ヲ貸シタルトハカリニテハ其事分明ナラ
何カ者ナリ貸金トカス
る何ヲ賣リタル金トカ又ハ家賃ノ滞リトカ云
フ其緣由ヲ記スルノ類ナリ

一 又其私ノ証書アルハ其証書ヲ以テ証據トナス可
キ旨ヲ記ス可シ萬一証據トナル可キ私ノ文書
ナキハ人ヲ以テ証トナスヲ記ス可シ

一 公正ノ証書ハ此等ノ辨解ヲ用ヒストモ十分ナリ
右等ノ一ヲ記載スル所以ハ被告人ニテ之ヲ一
見シテソノ訴訟ノ相當ト不相當トヲ認メテ

其覺悟ヲナス為メナリ

一 不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記ス小字アレ
ハ其小字名ヲモ記ス可シ

右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス

町名番号アレハ亦之ヲ記ス時トシテ此ノ如ク
詳細ナルニ及ハス其一團ヲナシタル不動産

有右ナ字アルノ類ナリ譬ヘハ道窪山飛鳥山正野茂草ト云フカ

如シ第六十四条見合

右ノ通り記シ置クハ被告人疑ヲ生セサラシムル
為メナリ

此項三段ト區分シ一ハ其事物ノ目的ニ其緣由
ニ第三六其確實ナル証據ナリ

第四 訴訟ヲ審判ス可キ裁判所及ヒ其裁判所
一ニ出席ス可キ猶預ノ期限

一物權ナレハ其物件所在ノ地、裁判所ヲ記シ又
被告人數人アルキ又會所ナル場所定マラ
サルキ等ハ其會社中一人ノ住所ノ裁判所ニ
出席スヘキヲ定メ記スナリ

一其裁判所々在ノ地名ヲ記入スルナリ
一右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入
ル、ナリ

一猶預ノ期限トハタトヘハ裁判所近傍ニ住ス
ルノ人ヲ呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出
スナラハ中間八日ノ猶預ヲナシ来ル五月九日
出席スヘキ旨ヲ記ス

一法律ニ定メタルナト、書ク可カラズ法律
人民一般ニ知ルト看做シアレモ中々全國皆
能ク知ルモノニアラス

一右ノ數ヶ条ハ原告人ニテ取調ヘ申述タル上
使吏ニテ呼出状ニ記入スルナリ同區内ト雖

モ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリ

一十「ミ」リヤメートル毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物
権ノ時ハ猶大切ナリ各地ノ距離ヲ知ラサル
モノ多シ

一又被告人多キ時ハ日数ヲ費スナリ其猶豫ノ
原則ハ第七十二條ニアリ佛蘭西國內ニ住居
スル者ニ付テハ總テ八日ノ猶豫アリ里程遠
キ時ハ五「ミ」リヤメートル毎ニ別ニ一日ヲ増
加ス

一八日トハ中間八日ニテ呼出状到着ノ日ト裁
判所へ出ル日トハ除イテ八日ノ内ニ算入セ
サルナリ

一祭日ニ當ル日ハ呼出状ヲ出サス又裁判所へ
モ出テス

一又右ノ八日目祭日ニ當ルキハ其翌日ニ呼出
ス「フ」ナリ若其祭日八日中ニアルモノハ期限
中ニ算入スルナリ

一右ノ八日ハ通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告
人其期限ヲ縮メテ呼出ス「フ」ヲ願フ「フ」得ル

一原告人ハ何レノ時モ至急ナルコトヲ欲セサル
ナシ然レ氏裁判官ニ於テ其事柄ノ急ニスヘ
キト否ストヲ見計ラヒ其願ヲ許スコトアリ
許サルコトアリ

一此願書ヲ差出スコトハ裁判所ニ限ルコトニ非ラ
ス裁判官ノ宿所ヘ至リ願フモ可ナリ其時ハ
ソノ宿所ニテ之ヲ許スコトアリ第千四十條
ヲ見合ヌ可シ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出状ノ効ナカルヘシ
此第六十一條ノ内一ヶ條ニテモ欠ケタルコトアレ

事ハ呼出ノ効ナシ

若シ使吏ノ誤ツテ記シタルキハ書直ス計リニテ
被告人ノ損トナルコトナキナリ

其誤書シタル時ノ入費ハ使吏已レニ擔當ス
可シ第千三十一條見合

一裁判ニ取掛ルルハ必ス其呼出状ヲ検査スルコ
トナリ

一右ノ効ナキ呼出状ニ付被告人ノ出席セサル
時裁判官ニテ其本書ヲ檢シテ其誤アルヲ知レ
ハ裁判ヲ為サルナリ

一若し裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲ為ス
アリテ後ニ被告人ヨリ故障ヲ申立ルキハ其
裁判入費ハ一切使吏ヨリ出スナリ

一再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ
初メハ欠席裁判ノ入費ハ使吏ヨリ出スナリ
右誤書等ノ場合ニ付大切ナル二件アリ

一裁判官呼出状ヲ檢シ欠誤アル時裁判ヲ為サ
サルハ其裁判ヲ拒ムニ非ラス其欠誤アルヲ
以テ其事件ヲ了解スルヲ能ハサル故裁判ニ
取掛ルヲ能ハスト云フ意ナリ是其一ナリ

一又呼出状ノ不都合ハ大抵使吏ノ過ケニアリ其
罰ハ「ハフランク」位ノ罰金ニテ濟ムコトアル共事
柄ニヨリ時ニヨリテハ其償ヲ為ス為メニ百萬フ
ランクノ出金ニ及ブコトアリ之カ為メニ其株式ヲ
失ヒ其身代ヲ抛棄シテモ足ラサルニ至ルコ
トアリ是其二ナリ

一譬ヘハ「プレススク」ノ期將ニ盡ントスル
頃原告人ヨリ訴ヘタルモノヲ使吏ニテ其期限
ヲ怠リテ呼出状ヲ出ササル如キノ類原告人ノ
損失莫大ナルヨリ其責使吏ニ歸シテ事此

ニ及フナリ

一 公礼儀式等ノ節ニ呼出状ヲ送達スルハ全ク効ナキニハアラズ使吏ニテ「五フランク」ヨリ百「フランク」マテノ罰金ヲ言渡サレナリ

一 使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合セテ六十人トス當時ハ其負ヲ増スモ計リ難シ但シ區裁判所ノ使吏ハ此中ニ算入セス

一 法律ニ効ナシト記セサル分ハ其呼出状ニ於テ効ナシトセス其過千ハ使吏其責ニ任シ罰ヲ受クルナリ使吏ソレ慎マサル可ケンヤ故ニ日本ニ於テ此使吏ヲ置ク所ハ温厚篤實ニシテ且才アリテ家資富有ノモノヲ擇ム可シ

一 佛ニテ使吏ハ身元金ヲ大藏省ニ預ケシ上免許状ヲ得然ル後ニ非サレハ使吏ノ務ヲ為スコトヲ得ス之レ定則ナリ

和
大

訴訟法會議筆記

七年五月五日

司法省

司法省

榎上〇アルモノハ許証法原文

五月五日會議

第六十二條 使吏ヲシテ呼出状ヲ送達^達セシム

一ル謝金ハ一月分餘ノ額ヲ拂フ可カラス

一使吏呼出状ヲ送達スルニ其裁判所所在ノ

ル^州ロシダスマシ中ノ遠キ所マテ行ク^州アル其時

ニテモソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外之ヲ拂

フ^州ナシ

一佛ニテ以前ハ二日モカ、ル^州アル共近時ハ

往來ノ便大ニ関ケタルニヨリ二日モカ、ル

ナシ假令二日カ、ル^州アルトモ一日分ヨ

リ外其旅費ヲ拂フナシ

一 裁判所ヨリ被告ノ住所マテ五「キロメートル」
迄ハ十銭モ其旅費ヲ拂フナシ

五「キロメートル」ヨリ十「キロメートル」迄ハ四
「フランク」ヲ拂フ

十「キロメートル」以上ハ五「キロメートル」毎ニ
二「フランク」ヲ増ス

増シテ二十「フランク」迄ニ止マル是即チ一日
分ナリ 二十「フランク」ハ五十
「キロメートル」ニ当ル

若シ二日モカ、ル時ハ使吏自費ニテ之ヲ辨ス

佛ニテハ往来ノ便アルユヘ其旅費二十「フラ
ンク」止マルトモ使吏ノ損トナルナシ其近

キ処ニテハ随分羨餘モ之レアルユヘ自ラ棄
除スルナリ

右ハ裁判入費目録中ニ詳カナリ

第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得サ

レハ祭日ニ呼出状ヲ送達ス可カラス
一 祭日ニ呼出状ヲ出スニ効ナキニアラス使吏

ニ過テアレハ其責トナルナリ前ニ説キタリ

第六十四條 物権ノミニ管シタル訴訟又ハ人

権ト物権ト相混シタル事ニ付テノ訴訟ノ時
ハ呼出状ニ不動産ノ種類其所在ノ邑ノ名及
ヒ知ルヲ得ヘキニ於テハ其邑中不動産所在
ノ部分並ニ其不動産ニ隣レル地ノ中少ナクト
モニ箇所ヲ記ス可シ但シ一團ヲ為シタル不
動産ニ管シタル時ハ其名ト其所在ノ地ヲ記
スルヲノミヲ以テ足レリトス若シ此等ノ事ヲシ
記セサル時ハ其呼出状ヲ取消ス可シ
此條土地ヲ記スルヲハ第六十一條ノ第三ノ
取^ル説キタリ故ニ此ニ贅セス

第六十五條 此條勸解ノトアルニ付先ツ勸解
ノ概畧ヲ説ク

一千七百九十年代佛蘭西ノ大麥草ヨリ蘭英ニ効
ヒ此勸解ノ法ヲ用ヒタリ

此時ヨリ英ニ行ハル、陪審ヲ用フ
佛ニテハ何レノ国ヲ論セズ美法アレハ取テ用

カルノ説アリ

治安裁判官ニテ必ス相争フ双方ヲ呼寄モ裁
判所ノ中ニアル自分ノ室~~又~~又ハ自分ノ宿所
ニテ^{ニテ}通常ノ衣服ニテ父ノ子ニ教フル如ク勸

解ス此時ハ裁判官ト云ハス勸解人ト云フ又
其場所ハ裁判所ト云ハス勸解所ト云フ

一 勸解ハ人権物権トモ必ス被告人住所ノ治安
裁判官之ヲ為ス動産不動産等ノ別ヲ立ツル

ナシ

其住所ニテ勸解スルハ平生其事^解能ク知
以故^ニ勸解^為シ易キヲ以テナリ 被告ノ事

一 其事柄ニ付勸解ヲ受ケルモノハアレトモ大抵
必ス勸解ヲ受ルヲナリ

一 タトヘハ甲ト乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲナス
ソノ丙ハ新タナル人ナレ氏之レカ為勸解ヲ

ナスヲナシ何トナレハ甲乙ハ既ニ勸解出来
スシテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勸解ヲナス共
益ナシ徒ラニ時間ヲ費ヤスノミナリ

一 又訴訟中新ニ償ヲ申立タルトモ主タル訴訟
勸解ス可カラサレハ其償ニ付勸解スルヲナ

キナリ

一 有訴訟ニ付保証人其訴ヘニ関スルヲアル共
此亦勸解ヲ為サルナリ

一 故ニ一旦主タル訴訟ヲ始メタル上ハ勸解セ

サルコナリ「第四十八條見合主タル訴訟ヲ為
サ、ル前ハ必ス勸解スルコナリ

一 勸解ヲナスヘキ訴訟人ハ各自己レノ權利ヲ以テ
其事物ヲ自由ニ取扱フヲ得ヘキ權アル人ニ
アラサレハ之ヲ為サルナリ

一 幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモノ等
其ノ事物ヲ自由ニ取扱フヲ得サル人
ハ其ノ後見人管財人支配人等一々相談シテ
允許ヲ受ケサレハ能ハサル故ナリ

若シ勸解ヲ為サントセハ右数人ヲ呼寄セサ
ルヲ得ス然ル時ハ其手数モ多クシテ容易ナラス
理ニ於テ当然ノコニアラサルナリ

一 第四十九條ノ目ニアルモノハ總テ勸解ニ及ハスト
ス何トナレハ政府縣邑等ノ事件ニ付テハ其會
議員ヲ尽ク呼ハサレハ能ハス是又理ニ當
ラサルコナリ

一 自主ノ權ナキ者勸解ニ及ハサルハ勿論又其人ハ勸
解スヘキスト至モ其争フ所ノ事和解ヲ為スヲ
得ヘキコニアラサレハ勸解セス
トトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ナリト訴フル如

キ是ナリ

又夫婦別居ノ夫夫婦財産ヲ分ツテ婚姻取消
ノ等モ亦同シ

一 尤モ夫婦単ヒテ勸解スルコトアレ共其時ハ縣裁
判所ノ裁判官之ヲ為スナリ治安裁判官ニテハ之ヲ
為ササルナリ

一 右ノ道理ハ治安裁判官ヨリハ縣裁判官ハ威
権モアリテ勸解モ能ク行届ケハナリ治安裁判官
ハ夫ノ朋友^{ナリテ多ク}モ知レ女相狎ルノ嫌アリ且其事柄
佛ニテハ鄭重ニナスコトナリ 民法離婚夫婦
別居ヲ訴フル等

余ニ詳
カナリ

右ハ訴ヘタリトモ必ス其ノ訴ノ通りニスル
モノニアラス其條理ヲ篤ト裁判官ニテ兼知セ
サレ之ヲナササルナリ

一 離婚ハ重キコトユヘ離婚ニナラサル様却テ治
安裁判官ニテ勸解シテ可然トノ説アレ共治安
裁判官ハ平日相^違ユヘニ輕シシテ夫婦互ニ
感セサルノ意味アリ

一 若シ勸解シテ不兼知ナレハ必ス別居セシメ
テ夫々其家屋ヲ扶ヒ及ヒ其給料ヲ与フルコト

子アレハ其子ノ引受等ツテノ手ヲ付ケサル
ヲ得ス此等ノ一ハ治安裁判官ニテ之ヲ處置
スルノ權ナシ是亦縣裁判所ニテ勸解スル所
以ナリ

一 勸解^{ニキ}キキ^{ニキ}一〇勸解^{ニキ}ニキ人 〇勸解^{ニキ}ニキ
ニキ事〇主タル訴訟

此三件^{ニ限}限^ハハ^ハ勸解スルナリ
然レ氏至急ノ場合又事情ニヨリ勸解ニ及ハ
サルモノアリ

一〇商業ノ事 〇家賃ノ事 〇土地借賃ノ事
〇利息ノ事等ナリ

一 又被告三人以上ノ時ハ勸解セス然レ氏之レ
ニ^又又^又之原告人多クシテ被告一人ナレハ勸
解ス

右ノ理ハ人情大抵拒ム丁アル故ニ被告人多
数ナル時ハ必ス之ヲ拒ニ勸解^トト^トカ^カナルモ
ノナリ

又^又原告人ヨリ勸解ヲ願出ル時ハ既ニ一歩自ラ
退キ相談スル^情情^アナル故被告人ハ必ス之ニ業シ
多人同腹ニテ申張ル故勸解セサルモノトス

タトヘハ外国人ヨリ我政府ニ雇ハレ度_レシ
願フ時ハ政府ニテハ成ル_ル丈_ケ給金ヲ賤シク
シテ使ハント云フ外国人モ終ニ賤給ニ從フ
カ如シ四海兄弟ト云ト至_ル至_ラハ虧ル
所アリ

総テ願ヒ出ルモノハ損ナリ

一 此四十九條ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ
七項ノ内ニ項ヲ取レリ_ル第ニ項_ハ六項_ニ是_レナリ
一 第一項 官府及ヒ云々ハ無論勸解ニ及ハサ
ルモノニテ此處ニ掲クルニ及ハス

一 第三項 主タル訴訟云々モ原ヨリ勸解ス可
カラサルモノユヘ亦タ掲クルニ及ハス

一 第四項 商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲ク
ルニ及ハス是レハ第二項ノ迅速ナル中ニ含
有スルナリ

第一項ハ行政上ニ関スル_ル丁ニアラス民事
関スル_ルナリ

一 第五第六項モ記スルニ及ハス年金養料ノ拂
方等原ヨリ勸解ノ出来サルモノナリ

一 第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ已

ニ察シタリ

但シ刑事ノ裁判ノ費用ト罰金ヲ拂ハサル
トニ付テハ尚ホ禁錮アリ

一右等ノ如ク佛國ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ
故ニ之ヲ其終日本ニ行フテアル可カラス我
國ノ害ヲ他國ニ及ホスナリ

併シ此法ヲ立テタルノ宜シカラスト云ニ非ス
法律編輯ノ宜シキヲ得サルヲ云ナリ

一勸解ハ現地多分行其勸解調停時ハ此
事ヲ如此云ト治安裁判官ニテ証書ニ

認メ約定ヲ立ラセタルトナリ

其約定ハ變改ス可カラサルモノナリ

一又其勸解調ハサル時ハ其調書ノ寫ヲ受取り
後訴訟ヲ呼出ス時使吏ニ渡スナリ

一治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十四條
ニ私ノ契約書ノカアリト書キタルハ甚宜シカラ

ス治安裁判官ノ書キタルモ公正ナル故ニ一詐偽アリ
テモ他人ヨリ偽リナリト訴フルマテハ正シキ證トスルモノナリ

公証人ノ証書ハ何方へ持出ストモ公正ノ証
書ニテ通ルモノナリ治安裁判官ノ書キタル

モノハ裁判所ニ持出サレハ其効ナシ

一何故ニ公證人ノ証書ト治安裁判官ノ証書ト右ノ如ク違ヒアリヤト云ハ此法律書ヲ作ル時ハ国議院ニテ草案ヲ擧ヘタルモノナリ其節ノ考ニ治安裁判官ノ書タルモノ一般公正ノモノトスル時ハ勸解々々ト云ツテ皆ナ治安裁判官ノ書付ヲ乞フニ至リ公証人ハ其職ヲ曠フスルニ至ル故ニ治安裁判官ニ権ヲ付ケサル為メニ如此ナシタリ

一右ノ訣ハタトヘハ一万フランクノ契約書ヲ公証人ニ頼ム時ハ三百フランクノ書賃アリ之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一錢ノ費ナシ是其公証人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因テ此ノ私ノ字ヲ下シテ暗ニ公証人ヲ助ケタルモノナリ

一故ニ公証人ノ書キタルモノハ其終公正ノ書トナリテ何地ニテモ行ハルレトモ治安裁判官ノ書キタルハ同シク公正ノ証書ニシテ一應裁判所ニ出サレハ其用ヲナサス

一公証人ノ証書ノ末文ニハ「オーノ」デ。ビユフロブラシセ」

ノ文アリ

佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之ヲ日本ニテ云ハ、
天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正証書ノ裏
所以下ナリ

一 以下再ヒ勸解ノ了ヲ説ク

若シ兩人ノモノ勸解極カサル時ハ其極カサ
ル旨ヲ記載ス

一 勸解呼出ノ節欠席スルトモ治安裁判官ニテ
欠席裁判ヲ為ス了能ハス唯欠席シタル旨ヲ
其調書ニ記入ス

一 然レモ其欠席ノモノハ治安裁判官ニテハ十フランク
ノ罰金ヲ申渡スノ権アリ

其罰金ヲ納ムルニハ八日ノ期限アリ

一 双方ノ中一方ノ者勸解ニ欠席シテ罰金ヲ拂
ハサル者ハ縣裁判所ニテ訴訟ヲ為ス了許サ
ス 第五十六條見合

一 原告人ニテ欠席スレハ十フランクヲ出シタル上又訴訟
訟ヲナス又被告人ニテ欠席シテ罰金ヲ拂ハサレハ
欠席裁判トナスナリ

右拂フタル証ハ代書人ヲ雇ヒ得ルナリ

其他勸解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルユハ拂フ
タルトモ分カルナリ

訴訟法會議筆記

七年五月十日

司法省

司法省

五月十日會議

○
 第六十五條 其呼出狀ト共ニ勸解ヲ為シ得テ
 一ル事ノ調書ノ寫又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ
 一記シタル書ノ寫ヲ送達ス可シ若シ之ヲ送達
 一セサル時ハ其呼出狀ノ効ナカル可シ○又呼
 一出狀ト共ニ訴訟ヲ為スノ憑拠タル證書ノ全
 一部又ハ一部ノ寫ヲ送ル可シ但シ此等ノ寫ヲ
 一呼出狀ト共ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時
 一原告人其寫ヲ送ルコトアリト雖モ其寫ノ費用
 一ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

一 訴訟セントスルニハ先ツ必ラス勸解スヘキ
 一 ナリ勸解調フクハ訴訟トナラスシテ濟ム
 ナリ老来勸解スヘキトト勸解ス可カラサル
 カトトノ別アリ勸解ノ調ハサル丁又ハ欠席
 シタル丁アレハ其旨ヲ証書ニ認メ原告人
 ニ渡ス訴訟ノクハ使吏其証書ヲ呼出状
 ニ添ヘテ被告人ヲ呼出ス

一 其呼出状ニハ勸解ヲ許シアル丁ツ書クニ及ハス
 又勸解ト出来サル丁ツ記スルニ及ハス
 勸解ニ及ハサル日ハ記シ置ストモ其事柄
 ニテ分明ナレハナリ

一 勸解スヘキモノト至モ急ナルクハ勸解ヲ受
 ケス其終訴へ出ルナリ其時ハ勸解ヲ受ケサ
 ル旨ヲ記ス但シ此時ニ限り其旨ヲ記入スル
 ナリ

幼年ノ丁身分ノ丁ハ過日説キタルカ如シ
 一 至急ノ丁ハ勸解ヲ為サス然レ氏裁判官ニ於
 テ至急ナラスト見込ム時ハ其呼出状ヲ効ナ
 シトス其時ハ被告人出ルトモ之ヲ帰ヘシテ
 更ニ勸解セシムルナリ

此時ニ當ツテハ其呼出ニ被告^人出席セスト魚
元ト勸解ノ順序ヲ經サルニヨリ原告^人ノ過
チナルユヘ其呼出状ノ費用ハ原告^人之ヲ擔
當スルナリ

一其時迄ハ代書^人未タ手ヲ付クルトナキニ付其
費用ナキナリ

使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日
二十フランクノ費用ヲ拂フナリ

一原告^人ハ被告^人三人以上アリトシテ呼出タ
ルキ其中ノ一人ハ訴訟ニ関セサルトアラシ

ニハ被告^人二人トナルユヘ勸解セシムルナ

リソノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告^人ニテ辨ス
ルナリ

布^有實地ニハ少キトナレトモ決シテナシト
セス

此一説ハ教師今考ヘ出ス所ト云フ

一三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告^人我
カ志願ヲ急クユヘワサト被告^人ヲ増シ三人
以上トシテ勸解ヲナサハル等ノ弊アルユヘ
之ヲ防ク為メニ此等ノ処ハ嚴ニ其區別ヲ立テ

タルナリ若シ右ノ場合ニテ呼出状ヲ出シタリトモ其呼出状ハ効ナキモノトス

一第六十一條ニ載スル証拠モノ、寫ヲ送ルルヘシ（本文）

此書付ヲ添ヘ呼出スル原則ナレモ若シ其寫

ヲ添ヘストモ其呼出状ハ廢物トナルニアラス其

書類ノ寫ハ後ヨリ裁判所ニ出スモ妨ケナケレ共費

用ハ原告人ニテ之ヲ拂フナリ

一前條呼出状ニハ証拠ヲ節略シテ書載スル丁

シ云ヒ此條ニ其寫ヲ添フル丁ヲ云フナリ

第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又

ハ姻屬ノ親及ヒ其婦ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬

ノ親ノ為メニ呼出状ヲ送達ス可カラス又其

再從兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血屬及ヒ姻

屬ノ親ノ為メニ呼出状ヲ送達ス可カラス若シ

此規則ニ背ク時ハ其呼出状ノ効ナカル可シ

一使吏ハ誓ヲ立テタル官吏ナレ共親族等ノ嫌

疑ヲ避サル可カラス故ニ親族ノ為メニ呼出

状ヲ取扱フヘカラストハ親族原告人ニテ

被告人ヘ呼出状ヲ送達セシムルニ使吏故ラ

ニ之ヲ被告人ニ送達セス因テ欠席裁判ト

トナリ遂ニ故障申立又ハ控訴ノ期限ヲ過
キタル迄被告人ニテ知ラサル等ニテ大ニ其迷
惑トナルヲアルユヘ之ヲ禁シタルナリ

此條中血属姻属ノトハ別ニ系圖アリ此儀ハ
別ニ説ク可シ

一此條・利トナル方ヲ禁シテ害トナル方ヲ禁
セス先ツ其區別ヲ説カンニ其害ニナル丁ハ
タトヘハ使吏ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其
書付モ其規則ニ合ハセス又取上ケモセス然
ル時ハ親族ノ為メシ量リテ却テ害トナル何

トナレハ終ニソノ為メニ親族ノ罪ヲ醸スノミ
ナラス自カラ罪ヲ得ルナリ故ニ之ヲ禁セサルナリ
又害トナル丁ヲ云ハ使吏ノ父ハ他人ヨリカ、
ル訴訟アル時其呼出状ヲ父ヘハ必ラス送達
スヘシ

若シ之ヲ送達セサレハ欠席裁判トナリテ父ノ負
トナル故ニ必ラス送達スルナリ

故ニ親族ノ被告人ナル内ハ禁セサルナリ畢竟利ニ
ナル方ハ之ヲ禁シ害ニナル方ハ差支ナキユ
ヘ之ヲ禁セス

一本條自己ノ宗系血屬トアリテ其分界ヲ立テス上
ハ祖ノ宗ノニ至リ下ハ子ノ孫ノマテヲ含シテ
云フナリ

姻屬ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ
通シテ云フ

上ノ自己ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親中ニハ
婦ノ宗系ノ血屬ヲ含ム下ノ姻屬ノ親トハ夫
ノ親屬ニアラス婦ノモノ姻屬ナリタトハハ
一度嫁シタル婦ハ舅姑アルヘシ右ヲ引取リ
タラハ自己ニハ関係ナシト虽モ婦ニハ関係

アリ

婦ノ離縁スレハ其姻屬ニ関係ナシト虽モ其
子ノ跡ニ残リタルキハ関係アリ

一旦離縁スレハ其縁断ユレ氏子アルトキハ
其縁断セス是其関係アル所以ナリ

其子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己ハ呼出
状ノ了ヲ頼ミタル時ハ直ニ拒ク了能ハス愛
情ノ起ルハ必定ナリ其愛情ヲ以テ取扱フ
時ハ必ラス私アル可シ故ニ之ヲ禁スルナ

リ

若シ其子ナキハ姻属ナシ使吏ニ於テ嫌ヒナシ
本文ヲ自巳ハ宗系血属又ハ姻属宗系ハ親及
ハ其婦姻属宗系ハ親婦ノ前婚ノ親ヲ指スト書ケハ分明ナリ
再從兄弟以上ハ夫婦双方ヲ兼子テ云フ
傍系ノ血属トハ伯叔父母以上ナリ姻属ノ親
トハ傍系ニ就テ云フ

前文ニハ婦ノ姻属トアリ自巳ノ傍系ノ血属
云々ノ所ニハ婦ノ姻属ヲ説カス婦ニ姻属ノ
親アリト云モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前
婚ノ傍系ニハ嫌ナケレハナリ

子アルトモ子ノ伯叔ノ事ハ差支ナシ

一 再從兄弟ヲ六級ノ親属ト云此再從兄弟ノ中
ニ異父母兄弟ヲ算入セス全ク同父母兄弟ヨリ
成リタル者ノミヲ云フ然ラハ異父母兄弟ニ
ハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ニ欲
ナリ既ニ法律ニ禁セサルニ於テハ異父母兄
弟ノ為ノニ送達スルトモ其効アルモノトス
然レ氏異父母兄弟ハ婦ノ血属即チ自巳ノ姻属ノ
親ヨリモ其情ニ於テ甚タ密ナリ嫌ナキ能ハス
此三之ヲ禁スル丁ヲ補フヘシ

然レ氏佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケケスシテ送達スルコト
 ナキ為メ裁判所ニテ別ニ其取締法ヲ設ケタリ
 此等ノ片ハ裁判所ニテ其罰ヲ加ヘ甚シキ
 ニ至リテハ二ヶ月ノ停職アリ又自分ノ
 為ニスル丁ト其妻ノ為ニスル丁トハ又
 此條ニナキナリ元ヨリ自己ノ^{呼称}断証ヲ自
 カラ書クコトハナキ筈ナレトモ法律ニ禁
 セサルニ於テハ差支ナキカ如シト^魚氏既ニ親族
 姻属ノ為メニサヘ禁アル丁ナレハ自己^{呼称}
 勿論ナリ

若シ右等ノ丁ヲ為シタル片ハ譴責ハ申スニ及ハス
 餘程重キ丁ニナルユヘ此條ニハ輕キヲ擧テ
 重ヲ云ハスト見做ニテ可ナリ

一日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ為ニスル
 丁妻ノ為ニスル丁異父母兄弟ノ為ニスル丁
 シ分明記入スヘシ

此等ノ法律ノ所欽ハ佛國ニテ改草スヘ
 キニ屢ニ国乱アルヲ以テ其改草ニ遑ナ
 ク其終ニテアルナリ

国議院ニテ旧来コード改正ノ議論アリ然

ルニ千八百七十年ノ乱ニテ其事終ニ廢シ
タリ其後巴里ノ變ニ国議院ノ草案等悉
ク兵火ニ罹リタリ實ニ惜ムヘシ

第六十七條

使吏ハ呼出狀ノ正本及ヒ副本ノ末ニ
其謝金ノ高ヲ記入ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ
後ニ其呼出狀ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時五
フランツノ罰金ヲ出ス可シ

呼出狀ノ價ヲ書クヘシ書カストモ其價ヲ取ラサル
ニモアラス効ナキニモアラス唯五フランツノ罰金ヲ
出スノミ此條ハ余リ大切ナル條ニアラス其謝金
ヲ貪ホルノ宿弊ナルニ因テ之ヲ拒ク為メニ置キタルナ
レ氏別ニ謝金目錄表アリテ其價ヲ増減スル
規則アレハ此條終ニ無用ニ歸ス

第六十八條 呼出狀ハ被告人ニ之ヲ渡シ又ハ其住
 所ニ之ヲ渡ス可シ然レ被告人ノ住所ニ其被
 告人及ヒ其親族從者ノ共ニアラサル時ハ使吏
 其呼出狀ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近隣ノ者
 其正本ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其近隣ノ
 者姓名ヲ手署スルコトヲ得ス又ハ手署スルコトヲ欲
 セサル時ハ使吏其副本ヲ其邑長又ハ其輔佐役
 ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得スシテ正本ニ捺印ヲ
 為ス可シ

一 使吏ハ其正本及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記
 ス可シ

此條已レ前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セス

第六十九條 此以前各人民ヲ呼出スコトヲ解ク此
 條以下ハ全ク別ナリ第一項ヨリ第六項マテハ無
 形ノ人ト見做スナリ

第一官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ
 呼出ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所ニ在ノ地ノ
 州長又ハ其住所ニ呼出狀ヲ送達ス可シ

一 官ハ無形ノ人ニテ其所有物アリテ被告人ニナルコ
 トヲ説キタリ行政ノ事件ニ関シタルコトニアラス即チ官

一人ト見做シ民事ノ裁判トナル

官ノ所有ニカルモノハ民事裁判

一 若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハ其害ヲ受ケルモノヨリ訴出テ民事裁判トナル

又官ノ山林等ヲ買ヒタルニ間違アリ又ハ其土地家屋貸借ノコトニ付テノ訴ハ民事裁判

一 又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ國債アリ佛ニテモ又大國債アリ此等ハ人民一般ノ金ヲ借ルト同一ナリ此等ハ政府ト金モ別ヲ立テス一般人民ト看做シ其訴ハ民事裁判トナル

以上皆民事裁判ニナルモノヲ云フ

一 以下行政ニ出ル分ヲ云ハシ

政府ト人民ト関係ノ時政府ノ権ヲ以裁判セサル可カラサルコトハ行政裁判ニ帰ス

タトヘハ租税ノコトニ付其出スヘキ高ハ行政官ニテ

法律ヲ以テ定ムレモ其各人民ニ取立ルコトハ各地

方ノ行政ニテ定ムルコトナリ

一 毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定ムタトヘハ

其高百万トスレバ之ヲ八十六縣ニ科シ之縣ニテ

何程ト定ム

尤州ニ貧富大小アレハ其相當ヲ以テ割合ヲ定ム
州又之ヲ郡アルコトナキニ割付又之ヲ邑コトナキニ割付一邑ノ高
ヲ定ム

ソレヨリ邑會議院之ヲ一人々々ニ割付ルナリ其
人々割付付テハ其者所持ノ土地廣狹産物
宅地空地等ノ表ニヨリ検査シ其税ヲ科スルナリ
右表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノコ
アリテ余分ニ税ヲ拂フコトアル時之ヲ訴ル如キハ
即チ行政裁判ニ歸スルナリ

日本ニテ云ハ、

天皇陛下其高ヲ定ムルヨリ其各人ニ割付ル至
ルコト行政上ニテ取極ムルコトナレハナリ、
此等ノコト若シ民事裁判ニテ取揚クルハ
「コングリ」權限ノ外トナル

一 三世ナホレオン千八百五十二年ニ大統領トナル
ハ前主「オリアン」家ノ財産ヲ取揚ケント布告シ
タリ此「オリアン」家ノ財産ハ佛國ノ物ナリ然ルニ其
「オリアン」家ノ子孫ヨリ右ノコトヲ布告直シニ為シテモ
ライ度旨民事裁判ニ訴ヘタリ之ヲ民事裁判
ニ取揚ケタルヲ以テ巴里ノ縣令ヨリ故障

申立タル故民事裁判ニテ之ヲ拒ムキハ権限
ノ事トナル付之ヲ行政裁判ニ帰シタリ然ルニ右ノ
訴訟ハ布告ノ通りト裁判ニナリタリガ
アリ家ノ訴ハ効ナシトナレリ

一 昨年ハナホレキニ三世ノ甥ナル者佛ニ帰ラントス
ルヲ警視廳ニテ留メタルニ付人民ノ權利ヲ妨
ケタリトテ警視廳ニ對シ民事裁判所へ訴ヘタリ
此時ニハ民事裁判ニテ取揚レハ権限ノ争アリ
ルト見タル故此訴ヲ断ハリタリ其時ノ言ニ一
政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府ノ為メ人

民ヲ保護セサル可カラスト云フ其訴ヲ取上サリ

十

一 タトヘハ教育ノ官アリ不抜ノ官ナラサレハ場合ニ
ヨリ免職セラル、トアリソノ場合ニヨラスシテ免職
セラル、時ハ何故ニ免職セラル、ヤト訴フルトアリ
此訴訟ハ行政裁判ニ訴フ
タトヘハ文部卿ハ自分教師ヲ免職スルノ権アリ然レ
共自分ニハ故障ヲ訴フルノ権アリ
自己奉職中休暇ヲ得テ日本ニ来リ居ルニ
佛ノ文部省ニテ免職スルキ自カマシ必ス之ヲ行

政裁判ニ訴ルナリ

一 右権限ノ大主意大段ニツニ分カル官ノ公

権上ニ就テノ訴訟ハ行政裁判ナリ

官ノ私権上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナ

リ

訴訟法會議筆記

五月十五日

司法官

司法官

五月十五日會議

第六十九條 第一項

官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ呼出
ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所所在ノ地ノ
州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

一官ニハ必ラス所有物アリソノ事ニ付テノ訴
訟ハ一般ノ法ニ循ヒ民事裁判ニ歸ス

一官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在
地ノ裁判官^所ノ權ニテ處分ス

右ノ場合ニ於テ官府原告ニテ人権ナル片ハ

被告人所在ノ裁判所へ訴フルナリ

若シ官府人権ノ付ニ付被告人トナルキハ何

レノ裁判所へ訴フヘキハ法律上ニ云ハスト

至凡呼出状シ何レノ所へ送達スルトモナリ

ハ法律ニコレアリ

一第^此項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テノ訴

訟ハ州長又ハ州長ノ住所ハ送達スルトアリ

原^案体官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理

者アリ故ニ此管理^者テ^此訟ヲ引請ク可キカ

如シト至モ州長ハ一州ノ惣代シテ聰明ナ

リ且其管轄地ノ支配権アリ以テ訴訟ヲ

防クニ管理^者ヨリ州長^ニ委シキユヘ州長ヲ

呼出スナリ

一タトヘハ神奈川県中ニ製鐵場アリ鑛山アリ

ユ部省ニ属スルモノト至モユ部省ハ惣テ

製鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニスル責

アルモノニシテ其土地ハ即チ^{政府}民ノモノト

レハ大藏省ノ管轄ナリ因テ^{其地}ユ部省ヲ呼ビ

出タサスシテ縣令^官呼ビ出スナリソノ時

ハ縣令ハ政府ノ名代人トナルナリ

何故ニ縣令州長ヲ政府ノ名代ト為スヤト云ハ、
大藏卿ハ全国ノ地ヲ管スル丁ナレ氏一人ニテ
自身一カ之レニ應接スル丁能ハサルユヘソノ
地ノ情態ヲ熟知スル縣令州長ヲ以テ名代人ト
ナスナリ

一 タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ所有
地へ侵入シタル氏ハ鑛山寮出張ノ官吏ヲ呼
ヒ出スヘキカ如シ然ルニ縣令ヲ呼ヒ出スハ不
相當ニ見ユレ氏否ヲス尤モ事ニヨリ鑛山寮
ノ官吏自ラソノ規則ヲ侵シタル時ハ直チニ

寮ノ官吏ヲ呼ヒ出ス丁アレ氏鑛業ニテ人
民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ呼
出スナリ元ヨリ寮ノ官吏ハ土地ノ丁ニ付テハ
ソノ訴ヲ防クノ權ナクシテ縣令ハ土地所有
ノ名代人チレハナリ
縣令ハ政府ノ代人トハ云ハ氏分別スレハ
即チ大藏卿ノ代人トナル譯ナリ

第二項

○ 官府會計局ヲ訴訟ノ事ニ付キ呼出ス時ハ其
官吏又ハ其官署ニ呼出状ヲ送達ス可シ

一 右ハ人権ニ関スルコトニテタトヘハ會計官
 吏ニテ人民ヨリ金ヲ借ルコトアリ右ニ付訴訟
 起ル時ハ人民相互ノ訴訟ト同一ニ歸スル故
 ノ會計局ニ呼出状ヲ送達スルナリ其借金
 ハ官ノ借用ニ相違ナケレ氏官ノ公權ヲ以テ
 借リタルニアラス畢竟會計局ノ私借ナリ
 故ニ民事裁判トナルソノ時ハ大藏卿ヲ呼出
 スコトナレ氏ソノ名代ニ會計局ヲ呼ヒ出スナ
 リ
 一 又タトヘハ金ヲバンクヘ預ル如ク人民ヨリ

官署ヘ預ケルコトアリ尤モ利金モアルナリ此
 等ノコトニ付訴訟トナルキハ人民ヨリ官署ヲ
 相手取ルコトアリ

又政府ニ関スル新聞紙又ハ公證人等保
 證金ヲ出シ置クニソノ業ヲ罷メルキハソノ
 金ヲ政府ヨリ返ス可キ^補返サ、ルキハ訴ト
 ナルナリ

ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預
 ト云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シ
 凡政府ニテ公ケノ權ヲ以テ取扱フタル金ニ

於テハ民事裁判所ノ權外タリ

一 タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出仕セサル

等ノ一ニテ月給ヲ引クトキソノ官吏ヨリ苦

情ヲ訴フルモノハ民事裁判所ノ權ニアラス

即チ行政裁判ノ權ニアリ

又トトハ官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキ

ハ官府ノ權ニテ借ルニアラス官府ニテ人

民トナリテ人民ヨリ借ル理ナリ即チ国債等

之レナリ

又トトヘハ陸軍ニテ軍器ヲ注文スルニソノ

軍器ニ付テノ訴訟ハ行政裁判ノ權ナリ

ソノ節ハ注文シタル省ノ卿自カラ其器械

師ヲ呼ヒ出タシ且ツ自カラ裁判スルナリ

国債ニ付キ争ノ起リタルトキハ即チ此條ニ

入ルナリ

尤モ右ノ場合ニ於テ争ノ起ルトハ絶テナシ

近年ノ戦ニ国債證書ヲ失ヒタルモノ澤山ア

リソノ時ニ更ニ證書ヲ請取ルトハ會計官

乞フモノアリソノ節右ヲ取調ヘテ渡ス可キ

ニ之レヲ拒ム時之ヲ訴フ如キハ即チ民事

裁判ニ入ル

トハ陸軍卿ヨリ軍器ヲ注文シタルニ其
器械遅延シテ未タ出来サル最^モ早軍モ
果タリ因テ其事ニ後レタルヲ以テ軍器
ノ價ヲ引ケト云フ片ニ争ノ起ルモノハ私
事ニアラス公権ナリ故ニ行政裁判トナ
ル

右ノ如ク軍器ノ粗悪又ハ出^其軍ノ跡等ニテソ
價^其渡^其サ^其ル時訴ノ起リタルトキハ民事
裁判官ニテソノ争ヲ審理スルノ理ナシ即チ

陸軍卿ニテ裁判ス

右人民ノ為ノニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公
権ナルニ其用ヲ勤ムルモノソノ事ニ忌リ或
ハ其物ヲ粗悪ニスルハ之レカ為メ不都合ヲ
生スルニ至リ政府人民ニ對シ其義務ヲ欠ク
所以ノ理ヨリ起ルナリ

一 国債ヲナスニ於テソノ人民ヲシテ損害^ヲ受
ケサラシメント欲スルカ為メニ政府ノ権
以テセス一般人民トナリテ借ルナリ
佛ニテモ行政ノ下ニ付テハ自カラ注文シテ

ソノ争ヲ起シ自カラ之レヲ裁判スルハ不都合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判所ヲ置キ通常裁判官ノ如ク不拔ノ権ヲ与ヘタル裁判官ヲ設ケント云フ説アレ氏未タ行ハレス

一 本文ニ^項唯^{ツキ}ハ^{ツキ}テ^説云^クワ

官吏ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クスルハ少シク不相當ナルカ如キモノナレ氏^魁マ^ラス^コハ^ニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍器ヲ同省へ納メ陸軍卿ノ檢印アル^證書ヲ以テ金

ヲ請取ラントスルニ會計官吏ニテ金ナシト云テ渡ケ、ル^氏ハ如何ス可キヤ即チ

右ノ注文品ハ既ニ検査済ミニテ納マリタル

モノナレハ即チ民事裁判トナルナリ

^品美惡ト出来ノ遅速ハ行政裁判ナリ

既ニソノ品ヲ受取りテ金ヲ渡ケ、ル時ニ至

テハ民事裁判ナリ

此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキ^アア^レ

氏佛ニテ此條ヲ存スル間ハソノ立テ^置ク^必

ノ理ヲ辨明セサル可カラス

第三項

○官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ其喬ニ呼出状ヲ送達シ其他ニ於テハ其委負又ハ其官署ニ送達ス可シ

一公ケノ建造物ヲ云フ病院狂院又ハ養育院質屋等ノ如キ官ヨリ監察ヲナスモノナリ官署ト云フモ公舎ト云フモ同シ公ケノ建造物ヲ云フ諸省等ノ如キハ其中ニハ入ラス

右ハ全ク人民ヨリ釀金ニテ出タルモノナレバ政府ヨリ監察ヲナスコトハ公ケノ建造物ト云フ寺ハ邑ノ持チコトハ此内ニ入ラス

其建物ハ私有物ナレバソノ支配ヲナスモノハ官ヨリ命スルナリ此公ノ字妥ナラスソノ附属ノ官負ノ月給ハ此建物ノ揚リ高ヨリ出ス

此建物ヲ建ルニモ閉ルニモ政府ノ允許ナカルヘカラス尤モ地方官ニテ允許ス此會計官ニテ検査スルナリ

一此本局ハ首府ニアリ支局ハ縣ニアリソノ時

ハ本局ハ本局ノ地支局ハ支局ノ地裁判所ニ呼ヒ出スナリ

第四項

皇帝ヲ其私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁判所管轄地内ニ在ル換事ニ其呼出状ヲ送達ス可シ
一佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝トナリ今ハ大統領トナリタリ大統領ニ對シテハ此條ハ用ヒス

古ヨリ言傳ヘニモ王ニ對シ訴ヲナスコトヲ得スト故ニ換事ヲ呼出スナリ此訴訟法ヲ作リタ

ルトキハ換事ヲ王ノ名代ト立テタリ故ニ此

ノ如シソノ後々八百三十二年ニ至リ全ク王

ノ所有物ヲ管轄スル官吏出来タリ民事目録官吏ト譯ス

後ハ此官吏ヲ呼出ストナリタリ

^{原本}林換事ヲ王ノ名代ト云フハ間違ヒナリ一

般人民ノ名代ナリ

故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民事目録官

吏アトミニスタラトイルテリストニビル王ノ書付ヲ以テ其所有物ヲ支配スル官吏ノ義

ヲ呼出シソノ後千八百五十二年ニ至テモ同

ニ決シテ王ヲ呼ヒ出ストナシ

千八百四十八年千八百七十二年トモ大統領ニ對シテノ法律ハ別ニ設ケサリシ

第五項

○邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ

一邑ノ一ヲヲ説ク前ニ先ツ説ク一アリ千八百六十年訴訟法ヲ編成スルコテハ縣ハ只土地ノ分界ヲテニテ縣ヲ無形ノ人ト見做ズ一ハ之レナシ故ニ縣ノ一ハ此ノ法律ニ載セサリシ今

日ニ至リテハ縣ヲ無形ノ人ト見做ス一ニナリタリ故ニ縣令ヲ呼出ス一トナリタリ
縣令ハ縣ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ故ニ人民ヨリ政府ヲ相手取ルハ縣令ハ政府ノ名代人トナル又縣ヨリ政府ヲ相手取ル時ハ縣令一人ニテ縣ト政府トノ名代人トナル一能ハス故ニ縣令ハ政府ノ名代トナリ
名代人ハ縣會議院中ヨリ撰ミ出ス
右ノ名代人ヲ撰マサル間ハ縣會議院長之レヲ為ス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ訴アルキハ邑長
ニテ邑ノ名代人トナル

邑ヨリ州縣ヲ相手取ルモ其ハ州縣令ハ州縣ノ名代
人トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル州縣ヨリ邑

ヲ相手取ルモ亦同シ尤モ此例ニアラサルモ
ノアリ「巴里」ヨリヨシ之レナリ

巴里ハ二十アルロンダスマニアリ一アルロンダスマニ
毎ニ長アリ右ノ如ク員長数人アルリ其ハ府ノ名代人ト

相手取ルナリヨリヨシモ「巴里」ト同シキユヘ州縣令
ヲ相手取ルナリ

右ニ付テ少シク面倒ナルトアリ若シ州縣ヨリ

巴里府ヲ相手取ルトキ州縣令一人ニテ州縣ト巴

里府トノ名代人トナルト出来サルナリ

巴里ノ規則ハ人民ヨリ巴里ヲ相手取ルトキ

ハ州縣令之レニ代ルリ時ハ邑長ノ仕事モ一

人ニテ兼ヌルト能ハス

ソノ時ハ権カアル方ニ依テ州縣ノ名代人トナ

リ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ムナリ

千八百四十八年マテハ巴里ノ州縣令ヲ称シテ

メールサンダラー州長ノ議ト云フ今ハ否ラ

司長局

ス

ソノ所以ハ州長縣令ハ巴里ノ邑會議院ニ上席ヒ

ス別ニソノ上席人ヲ撰ムトニナリタリ故ニ

其名ナシ

巴里此多如クヲ區分スルトニハ一人ノ邑長ニテ

廣キ首府ヲ惣轄スレハ人民ノ不便利ヲ生ス

ル故ナリタトヘハ婚姻死去ノ届等ヲナスニ

遠隔ノ地マテ往来セサルヘカラサルヲ以テ

不便利ナレハナリ

訴訟法會議筆記

七年五月廿日

草稿

司長

司長

第六十九條

^赤第五項ノ第二

此五箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リ
 タル者其正本ニ換印ス可シ若シ之ヲ受取ル可
 キ者其所ニ在ラス又ハ其所ニ在リト雖凡換印
 ラ為ス^トラ肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役
 又ハ初告裁判所換事其換印ヲ為シテ其呼出狀
 ノ副本ヲ受取ル可シ
 以前ノ五^項條ハ總テ無形人ニ對スルモノヲ
 云フ右ハ人ニ對スル呼出狀ト違ヒ政府ヲ呼

出ストキニ於テハ官吏ノ身ニ切實ナラサル
 エヘ急リ傷ナナリ故ニ官吏ノ身ニ滌ニ忘レ
 サル為メニ檢印セシムルナリ過日説キタル
 本人并一家不在ノ時近隣ニ送達ニ檢印セシ
 ムルハ使吏ヲ經フニハアラス請取リタルモ
 ノ、等閑ニセサル為メナリ
 昨日義務ノ生スル五根元ヲ説キタリ此ヶ條
 ハ前キノ五根元中ノ何レニ入ルヘキヤトイ
 法律ノ部ニ入ラレテ
 者ヲス

契約ニ入ルニ然リ

代理ヲナスノ契約ナリ

第一、縣令

第二、官吏

第三、公舎等ノ支配人

第四、皇帝ノ私有物支配

第五、邑長等

右等ハ惣テソノ職ニ任シタル節既ニ代理ヲ

為スノ契約ヲ生シタルモノトス

若シ右等ノ官吏ニテ請取ルヲ欲セス又ハ

不在ノ時ハ治安裁判所ノ裁判官又ハ被告裁
判所ノ換事ニテ請取リ換印ヲナスナリ

柯故^其官吏ニテ拒ム^一ザルヤ

甚夕稀レナリ^此時ニヨリソノ呼出状ヲ見テ縣

邑等ノ官吏ニテ此レハ他ニカ、ル^一ニ付キ

請取ラスト故障ヲ云フ時ハ使吏ニテ Hanson

當否ヲ弁別スル^一能ハサルユヘ裁判官又ハ

換事エ渡スナリ

公權ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申付ル

トアリソノ事件ニ付呼出状ヲ會計局ノ官吏

へ送達スルニ右官吏ニ於テ我レハ此事ヲ知

ラスソノ省ノ長官ヲ呼出スヘシト云フ如キ

之レナリ

換事^又治安裁判官エ渡シタル上ノ送達ニ付

テハ拒ム^一能ハス故障アレハ裁判所へ出テ

述ヘサルヘカラス万^一ソノ時ニモ日限中ニ

裁判所へ出サレハ欠席裁判トナリテ邑長ナ

レハ一邑ノ責メヲ一身ニ受クルナリ

換事^又治安裁判官ト定メタルハ使吏ノ便利

ノ為メナリソノ送達ス可キ距離ニ於テ力

ントシナレハ治安裁判官^近シ巴里等ニテハ

換事^近シ何レニテモ其便利ノ方ニ渡シテ然ルナリ

コウヂトヘ一ニテハ必ラス請取ルナリ何トナ

レハ官録アリ不拔ノ權ナシ拒ムト能ハス

ハ色長^ルハ自由ニ議論スルトヲ得ル

第二十九條 第六項

高社ヲ其社ヲ結ヒタル時間呼出ス時ハ其高社

ノ家ニ呼出状ヲ送達ス可シ又既ニ高社ヲ解キ

タル後ハ其社中ノ者又ハ其住所ニ之ヲ送達ス

可シ

高社^モ亦無形人ナリ

此項英譯誤マリタリ

高社ヲ結ヒソノ家ノ定マリテ存在スル間ハ

其高社ノ家ニ送達ス可シ若シ定マリタル高

社ハ家ナキ^時ハ其社中ノ人又ハ其人ノ住所ニ

送達ス可シト云フナリ

高社ヲ^解キタルトキノ一ハ書テ無之併シ惣

會計ノ仕揚ケ無之間ハ即チ此條ニ循フナリ

高社ノ家ノナキト云フ一ヲ説カン

タトヘハ犯前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ラント

数人約連束シテ運輸スルモノアリ犯前ニモソ
ノ會所ナシ東京ニモソノ會所ナシ併数人約
束シテ商ヲナストキハ即共社ハ有ルナリ
高社ノ存續スル間ト云フコトヲ説カン
高社ヲ立ツルトハ社ノ為メニスルニアラス
一般ノ人ノ為メニスルナリ然ルニソノ社ヲ
辨キタルトキ一人ニヨリ勘定ヲ取ルコトニテ
ハ甚タ取ル人ノ迷惑ナリ故ニ惣勘定ノ清ム
マテハ法律上ニ於テ其社ヲ解散スル社ノアルモノト見做シテソノ社ヨリ
勘定ヲ取ル様ニ定メタルナリ

右ノ譯ニ於テハ裁判ノ都合ノ為メヨリハ人
民ノ都合ノ為メヲ重ニスルナリ
民法五百二十九條トアリ参照スヘシ
既ニ會社ヲ結ビ銘ニ動産不動産ヲ差入レタ
ルトキハ即會社動産不動産ニテ一己ノモノニ
アラス故ニ其不動産ハ書入レテ一己ニ金ヲ借ルコトヲ得ス
會社ニ於テ民事商事ノ別アリ
高社ヲ結フニ既ニ持込ミタル動産不動産ハ會
社ノモノナシトモ
民事ハ否ラス其所有物ヲ持込ミタリトモ其張リ各自ノモノナ

司法省

リ

民事商事全ク別ナリ商業會社無形ノ人^目會社

高社ニテハ持込ミタル^物産ハ高社ノモノナレ

モソノ股分^金ハ各自ノ利トナル

タトヘハ幼年ノモノ高社ニ入ルニ元^本未^始當^相

ノ裁判所ノ允許ナクシテハ幼年ノモノ^{ニテ}不動

産ヲ賣ル^テヲ得スト雖モ高社ニ入りタル

上ハソノ手數ヲ經ス^レテ賣ルナリ之レハ高

社ノモノ^{ニシテ}且^且動産ト見做セハナリ

民事ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ル^テ能ハ

ス有形ノ人ナレハナリ

會社へ入レサル^財産物ハタト^其社^社ニ散スル^テア

リトモ^其分散中ニハ入ラス既ニ社ニ入レタル

丈ケノモノ^其ハ分散中ニ入ルナリ

社ニモ種々アリ株金差入會社ニ於テハソノ

社ニ入レタル金丈ケニテ済ム

有名會社ニ於テハ銘々身代ノ有ル丈ケ分散

*中ニ入ル

幼年ノモノハ高社ニ入ル權ナ^レカ^如何^何

并續ナリヤ

司法省

ソノ父ニ於テ社ニ入りテ後死シタル時ハ其子ノ相続人ト

付テ社中ニ入り居ルナリ元ヨリ幼年ニテ

入社スルトハ出来サルナリ

高社ニ入ルニ銘々差入レタル動産不動産

又社ノ金ニテ買得タルモノハ皆其高社

ノ出ナリ

ソノ義務ハ如何ナルモノト云フ片ハ動産者義

務ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ股分金文

ケナリ

何タル法律ニ據テ何故ニ長年ノ社ト商業ノ會社ト

社トハ大ニ違

如此キ法ヲ立テタルハソノ信託ト取引スルモ

ノニ於テ十分信託ナルモノトシテ信用セシム

ル為メニ立テタルモノ故社外銘々ノ借入金取ル

諸社其へ障其ルトハ出来サル為メニ為シタル

ナリ

然レモ民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社

ヲ其クトキハ所有ノ權ハ全ク消滅スルナリ

本條ニ於テハ説

會社ノ存續スル迄トナスルハ銘々ソノ金

ヲ持テ去ルナリソレカ為メ社金ト私金ト混
淆シテ社ト引合タルモノ、送惑トナル故ニ
惣勘定ノ消ムマテハ會社ノ存續スルモノト
見做シテ其社ニ送達スルナリ
此事ニ付テ儀禰アリ前文ノ通會社ノ事務ハ民事ノ
社ト違別アルワサリ高事ノ方ニ從ハシ然民事ノ方
ニ從ハシ歟
民事ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ家
ハ誰ニ屬スルヤト云ヘハ其社ノ各人ニ屬スルモ出金
高文ケツ屬スルナリ

右會社ノ一人ニ於テ分散トナルトキハソノ
高文ケ即チ分散中ニ入ル
佛國ニ於テ民事ノ會社ハ法律ニ於テ
ハ之レモ全ク高社ノ如クス可シトノ論アレ
凡五法官ニテ未タ其論ニ從ハス
民事會社ノ都合ナルハ社中ノ一人分散シ
タルトキハソノ社中ノ關係トナリ送惑ヲ蒙
ムルナリ
委シキハ會社規則ヲ見可シ
民事高事ヲ別ニ立テタル原因ハ如何トナレハ

古へハ社ヲ無形人トナシス^{看做}トナシテ知ラサリシ古

トテモ民事商事ノ社ハアリタレ^氏惣テ有形

人ナリ^{ラシク取扱フ}

革命後稍ヤク^{高社}無形人トナス^トヲ論シ出シタリ

農業會社^{ニ於テ}ノ無形人^{トナシ}ハ本都合ナラスヤ

尙取^キ

ソ^中一人借金スルニ土地^ハ社^ノモノニテ^其勳カ

ス^トヲ得^ルハ^不都合ナリ^ハシ^トノ^後アレ^共

無形人ノ方^{都合}口^ニソ^ノ人ノ為メニハ^前股分^金

丈ケヲ自由ニシテ土地ハ勳カス^トヲ得サ^ラシ^ハ

レハナリ